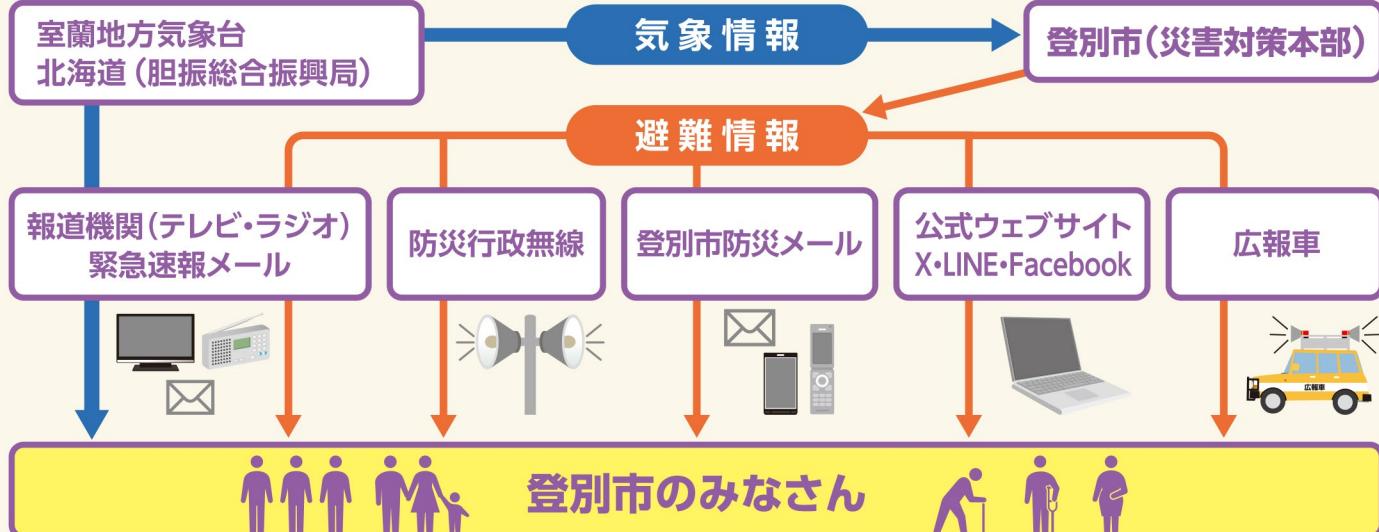


# 安全に避難するために!

## ● 災害発生! 正確な情報を入手する!!

災害に関する情報は、下図の経路で伝達されます。



## ● 災害などで発令される避難警戒レベル情報

災害時でとるべき行動を、5段階の「警戒レベル」でお知らせします。



\*身の危険を感じたときは警戒レベルに関わらず避難してください。また、必ずしもレベル1から順に発表されるとは限りません。

**警戒レベル5  
緊急安全確保** が発令された場合

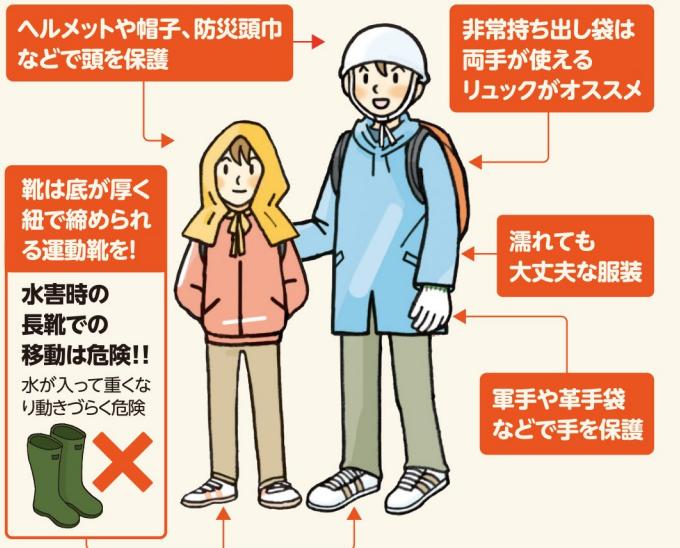
これまでに経験したことのないような、危険が差し迫った異常な状況にあります  
**ただちに「命を守る行動」**をとってください!

## ● 避難するときの注意点

避難の際は、自分で判断し自分の身は自分で守る「自助」、近隣地域で声をかけ合い助け合う「共助」を基本とし、余裕を持って早めの対応を心がけてください。

### 避難時の服装

荷物は少なく、動きやすい服装で避難しましょう。



### 避難前にすること

自宅の火災を防ぐために、ブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めるなど火の元の確認をしましょう。



### 避難は徒歩で、2人以上で避難する

避難は徒歩が原則です。様々な事態が想定されますので、単独や夜間の移動は避け、できるだけ明るい時間に避難しましょう。



### 要配慮者への思いやりを!

障がいのある方・高齢者・傷病者・子ども・妊産婦のほか、外国人などは避難に時間がかかる場合や、情報・状況をすぐに把握できない場合があります。要配慮者には思いやりと支援を心がけましょう。

**高齢者  
傷病者**

- 複数で避難支援をする。
- 不安を取り除くように声をかける。
- 手を貸したり、緊急の際はおぶって避難する。

**障がい者**

- 介助や手助けをする。
- 目が不自由な方には、不安を取り除くようにゆっくり話かける。
- 耳が不自由な方には、筆談や身振りで対応する。

**妊産婦・  
子ども**

- 荷物を持つなどの手助けをする。
- プライバシーに配慮する。
- 子どもがはぐれたり、ケガをしないよう気にかける。

**外国人**

- 通訳を介した、正しい情報を伝えることが大切です。
- 言葉が通じない場合は身振り、絵などで対応し、スマートフォンの翻訳アプリ等を活用し正しい情報を伝える。

## ● 分散避難で「密」を避ける

避難所が過密状態にならないために、「避難所」への避難以外に、「親戚・知人宅」、「ホテルなどの宿泊施設」「車両避難(車中泊\*)」、「在宅避難」などさまざまな避難先に、分散して避難することが大切です。

\*車中泊は一酸化炭素中毒やエコノミークラス症候群などの健康被害に十分留意することが必要です。

### 危険性が高い場所にいる場合

#### 避難① 立ち退き避難

##### 指定緊急避難場所・避難所

危険なときは迷わず指定の緊急避難場所や開設されている避難所へ避難しましょう。



##### 分散避難

安全な場所にある親戚・知人宅や宿泊施設などへ避難しましょう。



### 危険性が低い場所にいる場合

#### 避難② 屋内安全確保

##### 在宅避難

避難は立ち退き避難が基本ですが、自宅が避難の及ばない安全な場合のみ可能になります。(P45参照)

